

1. 技術体系の特徴

経営類型	家族労働力	品目・栽培型及び規模		経営・技術の特徴
施設野菜專業經營 VI	3.5人	いちご夜冷	a	1. 品種「ゆめのか」 2. 高設栽培 3. 夜冷、株冷処理による早期出荷 4. 環境制御技術 5. 常時雇用あり(1名)
		いちご株冷	10	
いちご普通	20			
計	20			
経営耕地面積	畑 50 a	50		
経営目標	1 農業総収入	41,742 千円	4 1日当たり農業所得	14,196 円
	2 農業経営費	31,434 千円	5 1人当たり年間労働時間	1,660 時間
	3 農業所得	10,308 千円		

2. 資本設備と減価償却費

	種類・規模	数量	型式・構造・能力	所割	有合	取得価格	耐用年数	年間償却額
						千円	年	千円
建物・施設	ビニールハウス	5	連棟標準型APハウス 1,000㎡	1	1	32,639	8	2,040
	高設栽培施設	5	一式 1,000㎡	1	1	31,352	7	2,239
	夜冷育苗施設	1	一式 1,000㎡対応分	1	1	1,403	7	100
	高設育苗施設	5	一式 1,000㎡対応分	1	1	2,377	7	170
	重油タンク	3	1900L/基	1	1	472	7	34
	防油堤	3	0	1	1	552	25	22
	電照施設	5	電照施設一式	1	1	5,478	7	391
	予冷库	1	3坪	1	1	960	7	69
	作業及び収納舎	1	軽量鉄骨 70㎡	1	1	3,780	24	158
	選果作業室	1	選果室 15㎡	1	1	810	24	34
	農機具倉庫	1	軽量鉄骨 20㎡	1	1	1,080	24	45
	計					80,903		5,301
	農機具	トラック	1	軽トラック	1	1	917	4
動力噴霧機		1	可搬式、防除タンク(500L)	1	1	268	7	19
高設用耕耘機		1	1.6PS	1	1	141	7	10
加温機		3	150,000kcl/h	1	1	3,963	7	283
炭酸ガス発生装置		3	1600~2800㎡用	1	1	1,211	7	87
多段階サーモ		3	加温機取り付け	1	1	277	7	20
循環扇		5	一式 1,000㎡	1	1	880	7	63
自動換気装置		5	1000㎡用	1	1	4,860	7	347
統合環境制御装置		3	モニタリング装置込み	1	1	4,652	7	332
局所施用装置		5	ダクトファン	1	1	3,300	7	236
計						20,469		1,511

3. 技術体系 (いちご 夜冷)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
(高設育苗) 親株植付け	親株床準備	11月上 ~11月下	高設育苗 施設一式 プランタ	2	12	24		高設育苗 プランタ使用 2株/1プランタ 専用親株 500株 250鉢×2株
施肥		11月上		2	2	4	肥効調節型肥料	プランタ施肥量(親株) 基肥 IB化成5粒/株 追肥 被覆燐硝安加里 (40日)7~8g/株
親株管理	ランナー配置 かん水 病害虫防除	11月上 ~ 6月中	かん水施設	2 1 1	35 3 3	70 3 3		ポット配置 14cm×14cm間隔 県病害虫防除基準による
鉢上げ	ポット準備 ランナー切断	4月~6月	トラック	2	58	117	10.5cmポット 10,000鉢	本葉2枚(発根初め)頃に行う 定植苗 7,500鉢 専用親株 1,000鉢 予備苗 1,500鉢
育苗ポット管理	かん水 追肥 摘葉	6月上 ~8月上	かん水施設	2	66	131	置き肥	N成分 100~200mg/ポット
病害虫防除	耕種的防除	2月下 ~9月上	動力噴霧機	2	27	54		炭そ病、うどんこ病の 防除を行う
夜冷入出庫	花芽分化促進	8月中・下 ~9月上	夜冷施設	2	18	36		入庫前にうどんこ病の 予防を徹底する 夜 温: 14~15℃
(高設栽培) 床土消毒	太陽熱消毒 温湯消毒	7月下 ~8月中		2	4	8		最低50℃以上を目安とし 二週間程度ホリマルチで被 覆
施肥	基肥施用 追肥施用	8月下 10月上 ~4月	トラック	2 1	4 1	8 2		高設用耕耘機の活用 全面施用 基肥成分量(マルチ前施肥込み) N 16.6kg P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> 13.4kg K <sub>2</sub> O 13.2kg  12月と1月に鉄資材施用
定植準備	かん水資材 設置	8月下 ~9月中	トラック	2	3	6		

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
定植		9月上 ～下	トラック	2	28.5	57		栽植様式(2条、千鳥) 株間20cm 10a当たり 7,000株
マルチ		10月上 ～中		2	10	20	白黒ポリフィルム	マルチはうね肩まで上げ 天井ビニール被覆後 下げる
保温準備	ビニール張り	10月中 ～10月下	トラック	4	9	36	ビニール厚さ 0.075mm以上	暖房機の保守点検
管理	誘引 摘葉、玉だし 摘果	10月中 ～3月下		2 2 2	6 25 50	12 50 100		下葉かぎは古葉・黄化葉 等を中心に随時行う。 玉出しは着色向上のために必ず 行う。 摘果も品質向上のために行う。
交配	蜜蜂放飼	10月中～	トラック	1	2	2	蜜蜂	6aに一群
環境制御	保温、換気 炭酸ガス施用 光合成促進	11月上 ～3月中	トラック 加温機 統合型環境制 御装置 環境モニタリ ング 炭酸ガス発生 装置 局所施用装置 自動換気装置	1	73	73		二重カーテン設置 午後 27～28℃ 夜間 6℃以上 早朝加温(日の出前から日の出 にかけて2時間程度。実温8℃程 度) 設定地温16℃
	下温処理	3月中・下	動力噴霧機	2	2	4		下温処理 クレファン等のビニール塗布
かん水		9月上 ～5月下	かん水施設	1	35	35		定植後から十分にかん水を行 い、早期の活着を目指す。 また、栽培中はこまめなかん水 を行う。
病虫害 防除	薬剤散布 耕種的防除	9月下 ～5月下	動力噴霧機	2	25	50		県病虫害防除基準による
収穫出荷		11月上 ～6月上	トラック	3.5	366	1282		取扱は丁寧に行う 4月以降は品質向上のために 早朝どりをを行う
後かたづけ		7月上	トラック トラクタ	2	10	20		
計						2207		

3. 技術体系 (いちご 株冷) p134～135を参照

3. 技術体系 (いちご 普通) p136～137を参照

4. 品目の作付体系 (☆親株定植、▼ランナー切断、△定植、□収穫、∩保温、◎電照)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
いちご(夜冷)											∩☆ ◎	
					▼				△			
	□											
いちご(株冷)											∩☆ ◎	
					▼				△			
	□											
いちご(普通)											☆ ∩ ◎	
					▼				△			
	□											

